



※農薬の使用はラベルの記載に従ってください。

コナジラミ類対策 ～育苗期・定植時～

対象病害虫によって希釈倍率が異なる場合があります。ラベルの確認をしてから使用してください。

灌注剤

育苗後半～定植当日
ベリマークSC



※ミネクトデュオ
粒剤と併用不可

IRAC : 28
25ml/400株
(散布液量 : 10～20L/400株)
マルチバチ影響日数 1日

※定植3～5日前処理がお勧め!

粒剤

育苗期または定植時

アルバリン粒剤



IRAC:4A
1～2g/株
マルチバチ影響日数
10日(クロマル22日)

※育苗期1回・定植時1回
使用可能です

ベストガード粒剤



IRAC:4A
1～2g/株
マルチバチ影響日数
30日以上

※定植時までで1回以内

鉢上げ時～育苗期後半
または定植時

ミネクトデュオ粒剤



※ベリマークSC
併用不可

IRAC:28,4A
2g/株
マルチバチ影響日数
21日

※育苗期に処理した場合、
定植時には使用不可

粒剤施用例



育苗期 株元処理



定植時 植穴土壌混和

※時期によって**使用方法**が異なります。ラベルをよく確認してご使用ください。



この症状はどんな病気？～立枯病～

【トマト立枯病】 *Fusarium solani-melongenae*
(*Haematonectria ipomoeae*)



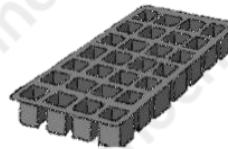
地際部や葉かき跡の茎が褐変・ひび割れし、
赤い小粒を形成する場合があります。
茎の内部まで広がると、株は萎れ、枯れます。
土壌伝染や、発病部から菌が飛散し、
傷口等から二次感染します。



【対策】

- ▶ 株ごと抜き、圃場外へ処分
- ▶ 土壌消毒・資材の交換や消毒

資材消毒していますか？



セルトレイやポット、支柱など病原菌が付着したままだと、越冬していても使用すると、翌年感染源となる可能性があります！



また、剪定用のハサミに菌が付着したまま使用すると、切断面から感染させてしまう可能性もあります。

大切な作物に病原菌を感染させないように、
育苗期も栽培中も資材消毒が重要です！



野菜類使用例 50aあたり6.25g(1袋)
葉面散布/1～2回/生育初期

窒素固定細菌Gd(グルコンアセトバクター-ジアゾトロフィカス)
葉から植物体内に入り、空中の窒素を供給！
窒素不足時に効果を発揮するため、窒素過多の心配もなし！



酷暑対策に

収穫物の
品質向上に

作物の
生産性向上に

高温対策専用バイオスティミュラント

炎天マスター



高温ストレスに遭遇する前に処理すると…

→**高温耐性のスイッチON!**

◎ HSF遺伝子の発現量増加
(高温に備える指令を伝える遺伝子)

◎ 活性酸素種(ROS)の除去
(ストレスを感じると増加し植物を傷つける物質)

500～1000倍
7～14日間隔
葉面散布

